

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月30日

【評価実施概要】

| | |
|-------|----------------------------------------------------|
| 事業所番号 | 4773800034 |
| 法人名 | 社会福祉法人久仙会 |
| 事業所名 | グループホームまがい友遊苑 |
| 所在地 | 〒901-3112 沖縄県島尻郡久米島町字真我里366番地 (電話) 098-896-8600 |

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 沖縄県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 |
| 訪問調査日 | 平成21年3月24日 |

【情報提供票より】(平成21年 2月23日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|---------------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成 17 年 8 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7 人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|------------------|----|
| 建物構造 | 平屋 | 造り |
| | 1 階建ての 階 ~ 1 階部分 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-------------------|
| 家賃(平均月額) | 30,000 円 | その他の経費(月額) | 光熱費400・管理費350円/日額 |
| 敷 金 | 有(90,000 円) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) (無) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,100 円 | | |

(4) 利用者の概要(2月23日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 1 名 | 女性 8 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 2 名 |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 2 名 |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 88 歳 | 最低 80 歳 | 最高 97 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------------|
| 協力医療機関名 | 公立久米島病院 久米島第1病院 仲里歯科 具志川歯科 |
|---------|----------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは三方を海・川・山に面し、一方を地域施設という自然資源と社会資源が融合した豊かなロケーションに囲まれて佇む。母体法人との連携を活かした協力体制のもと施設長から職員まで足並みを揃え、認知症に対する新しい知識や技術の習得に励み、実践の質を高めていく為の努力をしている。これから必要とされる終末期ケアの方針や医療連携も整備されマニュアルも確立されている。ホームの名称にある「宛」は「めあて」の意味があり、地域で暮らすお年寄りが入居の必要性が出た時、当ホームが安らぎのある良きめあてになることを目指す。停車中の車に、いつのまに野菜プレゼントがどっさり積まれていたりするなど「地域密着」そのものが日常的に行われている。当ホームの熱い思いと高いビジョンが地域発展の原動力となり、認知症啓蒙のリーダーとして活躍することを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 職員は前回の改善項目のそれぞれを何度も話し合い深く掘り下げ、実践に移しており、その結果前回8項目あった課題が6項目に於いて良好な改善が見られた。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 調査項目票はコピーして職員一人ひとりが自己評価し、その後の集会で検討を重ねて現場でフィードバックしながら取り組み、仕上げた。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 開設当初から隔月で定期開催している。毎回テーマを設定し、その他にホーム内の出来事すべてを集計化した資料を提供して忌憚のない話し合いが行われている。将来的には家族の多くがメンバーになって貰える方法を模索中である。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族へはホーム便りや行事等、或いは地域内で顔を合わせた時に家族の声を積極的に聞いている。また意見箱やアンケートなどの間接的方法も用いている。今のところ苦情や不安などは出ていない。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 散歩やドライブなど人と接するあらゆる機会を捉えて笑顔であいさつしている。ホームに隣接するゲートボール場で練習する方々には、湯茶サービス・トイレを使用してもらったり・見学応援参加・職員による草刈ボランティアなど日常的に地域と関わっている。 |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 玄関中央に掲げてある理念書は、地域に選ばれる施設とは何か、を常に問いかけ原点を忘れないよう事業所創設時の熱い思いをそのまま理念としている。理念に対する姿勢は母体法人と共有理念でありながらもホーム独自の理念として醸し出されている。 | | 地域と共に歩み、支えあい、地域で暮らし続けるための支援が実行されている。今後は、誰が見ても地域との関係性が分かるような理念にしてほしい。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者と職員は理念を共有し、将来自分たちが住みたいとなるような施設を目指し取り組んでいる。職員は理念を漠然と捉えることなく具体的な場面で常に立ち返る原点として、実践している事と照合しながら日々のケアに勤めている。出勤したらまず掲げた理念に目を通すことを習慣化させている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | ハーリーや敬老会、クリスマス時の町見学など地域行事へ積極的参加をしている。また隣接する老人会ゲートボール場で練習する方々には、湯茶サービス・トイレを使用してもらったり・見学応援参加・職員による草刈ボランティア・畑の収穫物を頂くなど地域とのつながりが日常的に行われている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 調査項目票を全員にコピー配布し、職員それぞれが自己評価した。その後の集会で意見を出し合い検討を重ね、現場でフィードバックしながら取り組み、仕上げた。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 開設当初から隔月で定期開催している。毎回テーマを設定し、その他にホーム内の出来事すべてを集計化した資料を提供して忌憚のない話し合いが行われている。将来的には家族の多くがメンバーになって貰える方法を模索中である。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 町役場担当者及び地域包括支援センターとは常に相談し、サービスの質の向上に努めている。法人内で配食サービスを展開している関係上、地域事情の情報が身近にあり、それらを収集提供してネットワークづくりが出来ないものか行政に相談している。また医療も含めた地域ケア会議を実現して欲しいと行政に要望している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | ホーム便りの発行や各担当者による定期的に家族連絡を行っているほか、体調不良時は家族に連絡し場合によっては面会を依頼する。金銭管理の必要な入居者に対しては島外にいる家族が一目で納得・安心できるよう通帳、領収証、記録簿の3点をセットで保管している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 諸行事やホーム便りのほか、地域内で顔を合わせた時に家族の声を積極的に聞いている。また意見箱やアンケートなどの間接的方法も用いている。今のところ苦情や不安などは出ていない。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動、離職は法人にとって大きな痛手となる為、出来る限りの努力をしている。やむなく異動がある場合、入居者の喪失感が小さくおさまるよう、2,3ヶ月間代理職員と一緒に勤務させ馴染みの関係を築くようにしている。異動はあるが退職はいまのところない。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間研修計画にあわせ、内外の研修へ参加させている。また資格取得助成金を設け職員の向上心を応援している。離島ゆえの旅費を含めると費用は大きい職員資格取得がやがては利用者へ質の向上としてフィードバックされる事を願い、全面的に支援している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 専門的資格を多く有する当ホーム管理者は同業者との交流や役員としての関わり、地域の小さい集会にも要請があれば率先して講演している。県外に在る同法人施設への職員訪問研修なども支援するなどサービスの質の向上に繋がることは積極的に受け入れ取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用者本人が安心し、職員に信頼を寄せてもらえるまで、約2週間掛けて在宅⇄入所を繰り返しながら体験入所をしてもらっている。その間家族の負担を考慮して、母体法人に協力して貰い無料送迎を提供している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員と入居者の年齢差から来る生活スタイルを意見交換して、違いを分かち合い楽しんでいる。入居者には県外からの移住者も居るので、地域文化の違いを行事として関わりながら学んだり支えあって過ごしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家庭行事などがあるとき、本人は帰宅願望があっても家族の意向とかみ合わないなど、難しい検討を迫られるが、そのような時は家の周辺をドライブするなど、本人の思いにより近い代替を持って、その思いに添えるよう努力調整し実行している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 必要な関係者と話し合い作成をしている。毎日詳細に記録している個人介護記録と業務日誌や申し送りなどを基にして、本人家族及び必要な関係者と話し合いをもち作成を行っている。 | ○ | これまで多忙を極めた当ホームケアマネの業務を専門的に支援するため、事務レベルの仕事と切り離したので、利用者本意の介護計画になりつつある。今後は家族の意見を積極的に聞き取り、さらに本人が生き生きとしたその人らしい介護計画になるようアセスメントをしっかりとって欲しい。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 申し送り後などに話し合いを持ち利用者の状況に合わせてケアの対応をおこなっているが、きちんと文書化が出来ていない為、まだ不十分である。 | ○ | 詳細に記録をしているが、それらを確実に介護計画書に落としていないので入居者の変化を確認することが困難である。今後は介護計画書の見直し前後の比較をひと目で確認できるよう工夫し、また家族の閲覧希望時には自信をもって提供できるよう書類の整理に努力すると共に、記録資料を1ページで見られるように様式化するなど書類のスリム化にも力を入れてほしい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や家族の要望に応じ、役場での入居者の書類の手続きや病院受診対応などを行っている。また隣接する地域のデイサービスとは双方向コミュニケーションで活発に行き来している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の受診支援を実施している。通院同行する際利用者の情報を口答のほかメモ書きを持参し提供している。利用者の毎月の通院受診日を見落としのないよう一覧表にしてある。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 現実に終末期ケアの利用者を受け入れ、取り組んでいる。職員が対応に迷うことのないようマニュアルを作成してある。入居者の最期がその人の意向に沿ったものとなるよう、また送る家族に対するグリーフケアなども勉強会で深め、医療との連携、方針の共有を確かめ合いながら更に学びを高めている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人情報事務所で保管している。オムツ換えには同性介護者が関わったり離床時の身だしなみに気を配ったりなど入居者の人権を最優先するよう常に意識して支援している。特に言葉使いに対しては細心の注意を払っており、「徘徊」「失禁」という言葉は使っていない。地域密着の小さい島でのプライバシーを守るため個人情報保護の取り組みをつねに確認しながら入居者支援をしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々のその人らしい暮らしの支援は、外出・買い物・散髪など入居者の希望を最優先することで支援している。家族が島外に出て留守にしている家屋を気にかけている入居者の心情を察し、散歩のとき一緒に家によって見ることもある。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食材の買出しや野菜のつくろい、食後の食器洗いや食器拭きなどを手伝う。食事の盛り付けには見た目の美しさにも力を入れており、煮物人参の花切り、緑黄野菜のいりどり添え、小鉢の利用など食べる楽しさが目から楽しみ、次に口へと2度も満喫できる。嚥下障害の人に対しても同一メニューを工夫して提供している。残量の殆ど無いのが作る人と食べる人の「我が家自慢」となっている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人が希望すれば毎日でも利用でき、時間も制限しない。同性介護を基本にしている。入浴を拒否する人に対しては声かけしつつもチェック表で日にち確認しながら静観する。不穏状態時には控えてもらい、記録に残す。広くて明るい風呂場では、シャワーはもとより浴槽も利用している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 健康体操やレク活動にも力を入れ入居者が楽しく過ごせるようにしている。本人の日常的役割の他に針仕事、習字、新聞を読んでもらう、読書などその人の希望を取り入れているので入居者はその場において皆表情が穏やかである。誕生日会には家族も招待するので広いフロアがいっぱいになる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ある一定時刻になるとホームを出たがる入居者に対して、その時間前に職員は自分の仕事を早めに済ませる。外出を楽しいものにする努力として出かけ際にカラフルな帽子を3つ揃え、選んでもらうことで、散歩を「喜び」として位置づけている。職員の都合を優先することなく徘徊を散歩と捉え、プラス思考で支援しているので、帰宅したときは穏やかな表情が見られる。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関にカギを掛けたことがない。広いフロアの中央に配置していた毎日利用しているリビングテーブルを玄関入り口近くに配置したら入居者は以前より落ち着いてきた。門限9時の消灯カギ掛けは利用者と一緒に戸締りしている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 設立時に消防法規程に沿った建築をした。耐火ガラス・IH器具・直通警報装置・全室掃き出し・大きな窓・電気系統のメンテナンスや非常時に備えた緊急連絡網など危機意識を忘れることなくすごしている。今後は避難場所の確保・誘導あとの見守りなどを、近隣に理解と協力が得られるよう努力する。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分チェックを記録している。湯茶はいつでも飲める状態にして台所カウンターに準備している。料理・調理好きの職員も多く個人対応のミキサー食や栄養バランスに気をつけ、完食してもらうための努力をしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 天井窓から射す淡いスタンドグラスからの光は共用空間を柔らかい空気になっている。テレビの適当な音量、家庭と同様必要なときだけのテレビスイッチなど無駄な音を減らし、かけっ放しにしない。そのぶん職員との関わりが多くなり、隣の人との会話も出てくる。四角い間取りの4隅にトイレが設置されており、居室近くのトイレと風呂場近くの共同トイレで安心感を誘う。リビング横には全員がくつろげる畳間を設えてある。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していたタンスや好みの品、こだわりのもの等を居室に入れ、在宅のような空間となるよう支援している。居室内の壁とカーテンは各部屋ごとに彩度の合った落ち着いた色で装い、また居室入り口のネームプレート上には本人の選んだ大きめの写真を貼り、個室で我が家のように居心地よく過ごせるよう配慮している。 | | |